

2011年10月3日

独立行政法人 国際協力機構  
理事 渡邊 正人 殿

環境社会配慮助言委員会  
委員長 村山 武彦

諮問（平成23年8月4日付 JICA(ER)第8-04001号）に対する答申について

JICA 環境社会配慮ガイドライン（2004年4月制定）2.4の規則及び環境社会配慮助言委員会設置要項第9項に則り、諮問「アフガニスタン国カブール首都圏緊急水資源開発プロジェクト」にかかる環境社会配慮におけるスコーピング案について、別紙のとおり答申いたします。コメントの種対に応じて、答申内容を協力事業に反映するよう、お取り計らい下さい。

2011年10月3日  
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 村山 武彦

アフガニスタン国「カブール首都圏緊急水資源開発プロジェクト」  
スコーピング案に対する答申

答申案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2011年8月29日（月）14:00～15:40
- ・ 場所：JICA 本部（会議室：2階201会議室）
- ・ ワーキンググループ委員：佐藤委員、田中委員、松下委員、村山委員
- ・ 議題：アフガニスタン国 「カブール首都圏緊急水資源開発プロジェクト」  
スコーピング案についての答申案作成
- ・ 配付資料：
  - 1) 事前配布資料「Scoping summary」（英文）
  - 2) 事前配布資料「Scoping summary」APPENDIX（英文）
  - 3) 補足資料
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2004年4月）

全体会合（第17回委員会）

- ・ 日時：2011年10月3日（月）14:30～17:30
- ・ 場所：JICA 本部（会議室：2階229会議室）

上記の会合にて答申を確定した。

**答申**（項目、表はすべて事前配布資料に基づく）

### **調査背景、調査計画**

1. パンジシール扇状地地下水開発事業、サラダム／グルバハールダム開発事業（水力発電事業を含む）の上位計画（カブール首都圏開発マスタープラン）における位置づけを明確にすること。
2. パンジシール扇状地地下水開発事業、サラダム／グルバハールダム開発事業が流域全体に与える複合的な環境影響（水質、水位低下、水利用、生態系、土壌流出等を含む）を評価し、環境社会面に配慮した適切な開発計画の策定に努めること。
3. ゴルバンド川、パンジシール川、パンジシール扇状地周辺の住民の水利用における社会的側面（水確保における性別役割分業、水利権など）について確認すること。

### **ステークホルダー協議**

4. 各プロジェクトによって影響を受ける地区や人々を可能な限り特定し、今後の協議において意見を聴取する仕組みを構築すること。また、特定が困難な場合には、影響を受ける可能性のある地区や人々が包括されるような協議の枠組みとするよう努めること。
5. ステークホルダー協議の参加者の属性について記録し、さらに協議においてはどのような属性の参加者がどのような意見を表明したか明確にすること。

### **パンジシール扇状地地下水開発**

#### **調査計画**

6. パンジシール扇状地地域において、降水量、表流水流出量、地下浸透量等の水理モデルを検討し、計画している地下水取水量が河川水量等に重大な影響を及ぼさない範囲であることを確認すること。
7. 地下水集水技術の採用に伴って想定される課題について検討し、環境面への影響が最小化されるように適切な計画を立案すること。
8. 今後実施される水質調査結果等を踏まえて、環境影響の少ない浄水処理技術が採用されるよう検討を行うこと。

## **社会影響**

9. 影響評価（表 18）において、「地域経済」や「利益と損害の不均衡」などのようにスコーピングで挙げられている影響項目の分析が示されていない場合があるため、これらについても評価を行うこと。
10. 事業対象地周辺における周辺住民の狩猟活動の現況を確認し、工事による影響が軽減される計画とすること。
11. パンジシール扇状地からの導水管・関連施設整備における用地取得・非自発的住民移転の規模、被影響住民数を明らかにすること。

## **サラダム開発事業**

### **代替案検討**

12. ダム建設地点や導水ルート of 代替案の検討に伴い、今後計画案を絞り込む過程で、各々の案ごとに環境面、社会面（非自発的住民移転の規模を含む）の課題を比較検討すること。

## **環境影響**

13. 土壌浸食は D（影響なし）としているが、影響を再検討し、必要に応じてレーティングの見直しを行うこと。

## **社会影響**

14. 事業対象地周辺における周辺住民の漁業活動の現況を確認し、工事による影響を評価すること。また、負の影響が想定される場合は、緩和策の検討を行うこと。
15. 影響評価（表 20）において、「地域経済」や「利益と損害の不均衡」などのようにスコーピングで挙げられている影響項目の分析が示されていない場合があるため、これらについても評価を行うこと。

## **グルバハールダム開発事業**

### **調査計画**

16. 既存の EIA 報告書と JICA 環境社会配慮ガイドラインで求められる環境社会配慮調査の内容の不整合について、本調査でどのように扱うか明確にすること。

以 上